

現状業務の見える化から始める「業務改善・生産性改革」のすすめ方 (4119308)

～テストがとても楽になる！～

現状業務の見える化から始める「業務改善・生産性改革」のすすめ方

本セミナーでは、まず、はじめに、日本企業の生産性が低い構造問題を解き明かします。そして、『業務の見える化メソドロジー』から始める、欧米流のプラクティスを導入した生産性向上フレームワークを使って、生産性向上の根本的で具体的な方法を学んでいただきます。IT主導型の業務改善・生産性向上改革を進めている方、テストの抜本改革を考えている方、必見の講座です。

開催日時	2019年10月2日(水) 10:00-17:00
カテゴリ	IS戦略策定・IS戦略評価・IS企画・IS企画評価 専門スキル
講師	宗雅彦 氏 (株式会社サイクス 代表 IT経営ナビゲータ) 『DX経営の冒険』(Facebookページ) https://www.facebook.com/DXkeiei UNIX OSの開発業務から、シリコンバレーでのITベンチャーの動向リサーチ・発掘、投資、事業開発業務までを経験し独立。DX(デジタルトランスフォーメーション)をIT経営の変革と定義し、企業の経営変革と顧客創造の推進支援に取り組む。 国際NPO団体IIBA(カナダ・トロント)にてBABOK(ビジネスアナリシスの知識体系ガイド)バージョン3(英語版)開発リーダー。JISA(情報サービス産業協会)「ビジネスアナリシス部会(2014年委員会)」委員。「ITエンジニアのためのビジネスアナリシス」、「ソフトウェア要求」、「アジャイルソフトウェアマネジメント」、「体系的ソフトウェアテスト入門」など訳書、多数。
参加費	J U A S会員/ITC : 33,000円 一般 : 42,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (日本橋堀留町2丁目ビル2階)
対象	現状業務改善・生産性向上改革のリーダー、ユーザー企業のIT部門、情報システムグループ会社、ベンダー企業の方、現場でテスト改革を進めている方 初級
開催形式	講義、演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

～テストがとても楽になる！～

現状業務の見える化から始める「業務改善・生産性改革」のすすめ方

IT主導による業務生産性向上に業務改善、大号令のもと、膨大な努力がはらわれているにも関わらず、うまくいった例をなかなか聞きません。ドイツ製造業の生産性は日本のそれの1.5倍、米国サービス業の生産性も、IT投資対効果も、日本の2倍。(労働生産性の国際比較2016年度版 公益財団法人 日本生産性本部 2016年他参照) この状況を放置すれば、企業も国も沈みます。

このセミナーでは、まず、はじめに、日本企業の生産性が低い構造問題を解き明かします。そして、『業務の見える化メソドロジー』から始める、欧米流のプラクティスを導入した生産性向上フレームワークを使って、生産性向上の根本的で具体的な方法を学んでいただきます。IT主導型の業務改善・生産性向上改革を進めている方、テストの抜本改革を考えている方、必見の講座です。

プログラム

本講座で取り上げる事項

第1章 生産性の本当の意味を知らない日本人

- 1.1 ドイツ製造業の生産性は日本の1.5倍、
米国サービス業の生産性は日本の2倍、
このままでは国が沈む日本
- 1.2 生産性向上の本当の意味
- 1.3 なぜ日本の生産性は、こんなに低いのか？
 - ・業務生産性向上の正当な方法を理解する
 - ・欧米の常識、日本の非常識
- 1.4 IT活用で生産性向上するために必要なこと

日本と世界の生産性格差
生産性の定義
生産性向上戦略
プロセスモデリング
システム思考
ゴール思考
バックキャストメソッド
仕掛かり作業
IT活用・バイモダルIT

第2章 業務生産性向上フレームワーク

- 2.1 現状業務の見える化
 - ・仕事の仕組みを明らかにする
 - ・生産性向上によく効く仕事の仕組みの表記法
 - ・業務の見える化メソッドロジー
- 2.2 問題を洞察する
- 2.3 生産性向上戦略とゴール設定
- 2.4 シンプルな業務プロセスを設計する

仕事の構造の見える化
インターフェースの見える化
プロセス表記法：マジカ
問題洞察手法
生産性向上戦略の立案
ゴール設定
バックキャストメソッド

第3章 「現状業務の見える化」ワークショップ

- 3.1 【演習】現状業務を見える化する
- 3.2 【演習】仕掛かり作業を見える化する

仕事の構造の見える化
演習
仕掛かり作業の見える化
演習

第4章 次ステップへの進め方

- 4.1 DX（デジタルトランスフォーメーション）と生産性向上
- 4.2 次ステップに進むために必要なこと

DX：デジタル・トランスフォーメーション

◆過去参加者の声◆

- ・モデル化が簡潔でわかりやすく、講師の方の話題性や進め方がとてもよかった（通信）
- ・非常に有意義な可視化の方法が理解できた（医薬）
- ・わかりやす聞きやすく、業務に取り入れ反映しやすい内容であった（通信）
- ・これまでもやもやしていた業務フローの各要素の抽出の仕方が、具体的に、理論的に理解できた（電気）

【宗先生の DX時代の生産性向上・新サービスビジネス創出セミナーシリーズ】

あわせてご参加いただくとより効果的です。ぜひご参加ください！

☆～DX推進！～企画段階からの「テスト改革」のすすめ方

2019年11月29日(金) 10:00-17:00

<https://juasseminar.jp/seminars/view/4119125>